

昭和42年度 和歌山県文化賞

ひがし 東 く め

住 所：大阪府池田市

出 身 地：和歌山県新宮市

生 年：明治10年

◎業績及び経歴

明治10年新宮市に生れ、同29年東京音楽学校卒業。翌年東京府立高女教員となり、同39年退職。以来昭和40年まで60年間、家庭にあってピアノ教授。ひたすら多数の児童を教育したかくれた功績も大きい。

氏は明治33年、わが国最初の言文一致の「口語歌詞」による童謡「鳩ぼっぼ」を作詞、ついで同34年「お正月」や「雪やこんこん」等の子供にもわかる、子供の喜ぶ童謡を作詞。これらなつかしい童謡の数々は日本童謡史上不滅の輝きを有するものとして、今日なお広く人々に歌い続けられている。

氏はまた、明治32年「四季の滝」、翌33年出版された滝廉太郎氏の名曲「四季」のうち、夏の「納涼」も作詞。これらの詩は当時作曲上の理由から使われていた七・五調を改めて、初めて八・六調で作詞したものであり、これは滝氏の作曲分野に新領域をひろげ、彼の芸術的才能を発展させた点で、まことに意義深いものがある。

こうした氏の音楽教育、幼児教育に多年つくした功績により、昭和34年東京芸大より、続いて同42年日本教育音楽協会から表彰され、昭和37年には新宮市から名誉市民の称号を、池田市からは教育文化功労章が授与されている。

なお、「鳩ぼっぼ」の歌碑は新宮市駅前、東京浅草寺(いずれも昭和37年)、池田市五月山(昭和38年)、および長野善光寺(昭和39年)の四か所に建立され、ながくその栄誉がたたえられている。